

第2部

各地からの報告：東京都内各地の生息繁殖状況

4. 東京23区：高橋 嘉明氏（日本野鳥の会東京）

調査研究者ではないので個人的に眺めてきたことを説明したい。東京都から区部にもわずかな営巣例があるとの話があったが、私が知っているのは二つで明治神宮と某都内緑地である。明治神宮にオオタカがいることは昨年まで2年間行われた明治神宮境内総合調査報告書に明らかにされている。明治神宮は長年探鳥会をやっており、1980年代半ばから急にオオタカを見る機会が多くなり、池でオシドリを抑え込む姿も観察されたりしていた。1990年代に入り、飛んでいる姿から木にとまる姿や水浴びする姿を観察するようになった。2007年に初めて営巣を確認した。ただし2005年には御苑という庭園で、その年生まれに間違いのない幼鳥を確認したので、2007年以前から繁殖していた可能性がある。2007年は2羽巣立った。ただし明治神宮で1羽保護しており、巣立つ前の保護であれば3羽となる。その後毎年のように営巣しているが、明治神宮の場合は、以後巣立ち数は最大で1羽であった。巣を放棄したと思われることもあった。2007年以降巣立ちとして確認したのは3羽。落鳥したものやエサをもらっていたのを含めると最大5羽は生まれていた。森の中をよくカラスに追われて飛んでいる。10羽くらいに囲まれていることもある。飛ぶのが速いのでカラスにつかまることはない。

某都内緑地では、1990年代半ばからよく見られるようになり、個体数も増えてきたと思われた。最初の営巣は2007年でカラスの古巣を再利用したものであった。2008年は同じ個体が別の場所で営巣し、一羽巣立ちに成功した。そこはカメラマンが多い場所だが、オオタカの営巣ということでカメラマンも神経を使い、抱卵に入ったらカメラを向けない、若鳥が巣立ったらそっと写してもよいなど暗黙のルールが作られた。6月の中旬には巣立ち、森でしばらく暮らし、8月の第一週くらいに高く飛んで森を離れる。

人工の建物の上にとまるオオタカを見ると、都市に順応したオオタカが多いと感じる。赤坂や永田町の自民党本部の上など都内で見かけるケースが多くなり、オオタカが増えていることを実感する。さきほどの某都市緑地では2008年を最初に、5回営巣に成功し、これまで11羽巣立っている。カラスや人間に順応している。明治神宮でもカラスを捕食している。某都市緑地では人間を利用して、エサを捕まえるとカメラマンの近くに持って来る。人の近くではカラスが来ないとわかっているのだろう。

東京都ではカラスを捕獲していて、カラスのケージ罠にオオタカがよく入ってくる。カラスを食べた後、そこにいれば業者が出してくれるとわかっているのだろうか。明治神宮

ではカラスのトラップに三回も入ったと聞いた。かつて山梨でオオタカを見かけた頃は 100 メートルほど近づくと飛び立っていたことを考えると、とても考えられない状況になってきている。区部ではキジバト、ドバト、コガモなども食べている。